

第2部
基本構想（本論）

第1章

市の将来像

1 目指す将来像について

本市のまちづくりを進めていくに当たって、目標とする市の姿として、次の将来像を掲げます。

しあわせあふれる
ひと・もの
交流拠点都市 “ やつしろ ”

（1）目指す将来像

本市は、トマト、い草、晩白柚といった生産量日本一を誇る農産物や、県内最大の貨物取扱量を誇り、国際旅客船拠点形成港湾に選定された八代港、ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭などの、豊富な地域資源と、南九州における物流・人流の結節点という地の利を活かし、熊本県の副都心を目指して、さらなる飛躍が期待されています。

「八代市総合計画」では、将来像を「やすらぎと活力にみちた魅力かがやく元気都市 “ やつしろ ”」とし、誰もが住みたい、住み続けたいと思える元気なまちづくりに取り組んできました。

今後は、これまで築きあげてきたまちづくりを基本に、さらに魅力ある都市として飛躍することを目指し、「しあわせあふれる ひと・もの 交流拠点都市 “ やつしろ ”」を将来像として定めます。

（2）将来像の言葉に込められた意味

子どもを安心して産み育てられるためのまちづくりや、住み慣れた地域で、安心して暮らしていけるまちづくりを進めることで、球磨川・八代海など多様で豊かな自然環境のもと、個性や能力を発揮しながら、郷土への誇りと将来への夢をもって住み続けることができ、誰もがしあわせにあふれる “ やつしろ ” を目指します。

また、ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭に代表される優れた歴史・文化遺産、八代港の機能拡張など、国内外から注目されている環境が整うことによる「人の流れ」と、安全・安心な品質の高い農林水産物の生産地、南九州の結節点という拠点機能、八代港からアジアへの輸出の増加による「物の流れ」というような、“ひと” “もの” の交流による、交流拠点都市を目指します。

（3）目標年度

基本構想の目標年度は2025年度とします。

2 目標人口について

本市のまちづくりを進めていくに当たって、目標人口を次のとおり設定します。

2025年度の目標人口
120,000人

(1) 目標人口の考え方

目標人口は、市の最上位計画である総合計画を進める上で、重要な指標です。

「八代市人口ビジョン」においては、人口の変化が地域の将来に与える影響を、「高齢化などを伴う人口減少は、労働力人口の減少や消費市場の縮小を引き起こし、地域経済の規模を縮小させます。それが社会生活サービスの低下による地域の居住魅力の低下を招き、さらなる人口流出を引き起こすといった悪循環に陥ることが懸念されます。」と分析しています。特に、地域産業、社会生活、地域コミュニティの面で、地域の将来に与える影響が懸念されるとしています。

また、2005（H17）年8月の合併後10年を経過してとりまとめた「市町村合併検証報告書」においては、人口減少や高齢化、若者の流出などに起因する、「公共料金等の負担増」「公共施設等の更新費用増加」「地域の活気・にぎわいの低下」の3つの課題を整理しています。

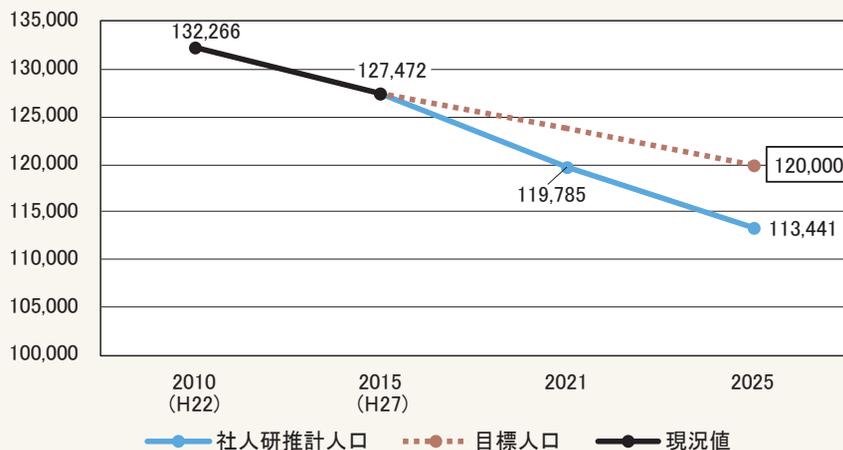
これらのことをふまえ、目標人口を定め、それを基に、今後の歳入と歳出の予測を行い、第2次八代市総合計画の計画期間で実施する、既存の公共施設の維持管理や福祉・教育・産業などの各種施策を進めなければなりません。

2025年度の本市の人口は、社人研によると、約113,400人まで減少すると推計されます。

本市のみならず、全国的に人口減少が進んでいる状況においては、まずは、この人口減少を抑制することを目指して、目標人口を120,000人と定めることとします。

(2) 推計人口と目標人口

■ 八代市の推計人口と目標人口 ■

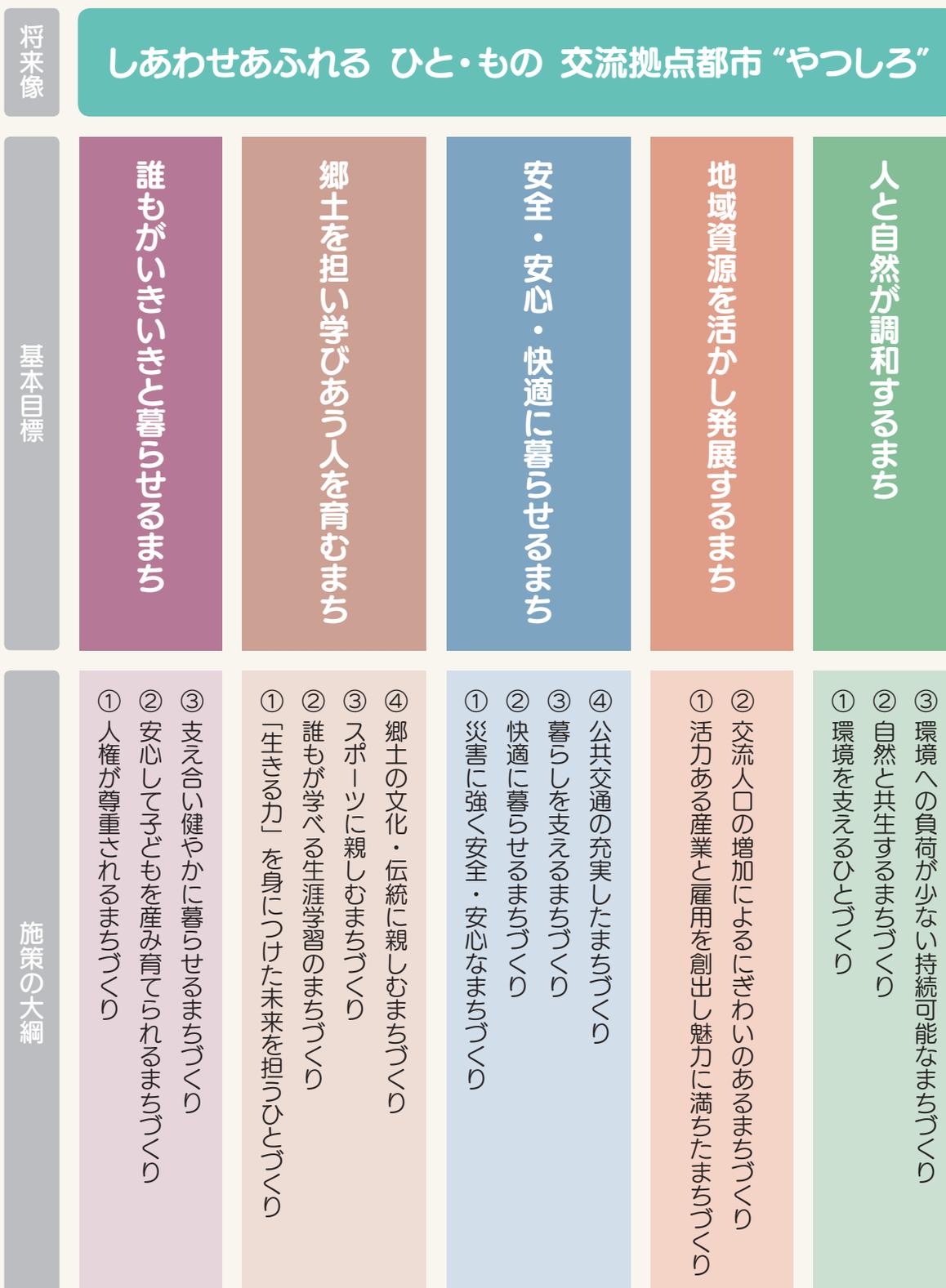


第2章

まちづくりの目標

<施策の体系図>

将来像を実現するための、「基本目標」と「施策の大綱」を図式化したものです。



1 基本目標

第2次八代市総合計画については、「八代市総合計画」の考え方を継承します。また、本市を取り巻く社会情勢や、市民アンケート、やつしろまちづくりカフェ（市民ワークショップ）などの意見をふまえて、将来像を実現するため、次の基本目標を設定します。

基本目標 誰もがいきいきと暮らせるまち

『人を支える視点』

誰もがお互いの人権を尊重し認め合うとともに、人権問題に関する教育・啓発活動に取り組み、いきいきと暮らすことのできるまちづくりを進めます。

また、子育て支援の充実により、安心して子どもを産み育てられるまちづくりを進めます。それとともに、子どもから高齢者まで、誰もが住み慣れた地域の中で、お互いが支え合い、健やかに充実して暮らせるまちづくりを進めます。

基本目標 郷土を担い学びあう人を育むまち

『人を育てる視点』

一人一人の個性を活かしながら、「生きる力」を身につけた未来を担う子どもを育てるため、教育の充実と次世代の健全育成を進めます。

また、スポーツに親しめる環境づくりや、ライフステージに応じて学べる生涯学習のしくみをつくり、活気に満ちあふれたまちをつくります。

さらに、すばらしい郷土の文化と特色ある伝統に親しみ、それらを磨きあげながら後世に引き継ぎ、誰もが郷土に誇りと愛着を持つまちづくりを進めます。

基本目標 安全・安心・快適に暮らせるまち

『暮らしを支える視点』

災害に強いまちづくりを進めるとともに、暮らしを支える社会基盤を引き続き整備します。また、地域の特性を活かした防犯体制の充実に努めます。

都市機能の安全性や利便性を高め、誰もが安全で安心して快適に住み続けられるまちづくりを進めます。

交通については、本市のそれぞれの地域拠点を連携させた、持続可能な公共交通体系の構築を進めます。

基本目標 地域資源を活かし発展するまち

『活力を高める視点』

フードバレーやつしろ基本戦略構想の推進による、稼げる農林水産業の実現を目指します。それとともに、地域経済を支える地域産業の再生・発展による雇用の創出を図り、魅力に満ちたまちづくりを進めます。

また、多様な地域資源を活かした観光・商業の振興によるにぎわいの創出を図り、さらなる発展が期待される八代港や文化・スポーツを活かしたまちづくりを進めます。

基本目標 人と自然が調和するまち

『環境を創る視点』

市民や事業者、行政それぞれが環境に配慮した行動を実践できるよう、高い環境意識を持った人づくりの取組みを進めます。

また、本市の豊かな自然が育む、きれいな水など、誰もが自然のめぐみを受けて生活する喜びを実感できる、自然と共生するまちづくりを進めます。それとともに、環境への負荷が少ない持続可能なまちづくりを進めます。

2 施策の大綱

先に述べた「将来像」や「基本目標」を実現するため、次のような施策を展開します。

基本目標

誰もがいきいきと暮らせるまち 『人を支える視点』

① 人権が尊重されるまちづくり

女性、子ども、高齢者、障がい者に対する偏見や差別、同和問題など、人権に関するさまざまな問題が存在しています。さらに、近年では、インターネットによる人権侵害など、新たな人権問題も発生しています。

そこで、誰もがお互いの人権を尊重し認め合いながら、いきいきと暮らすことのできるまちづくりを進めていく必要があります。

そのため、誰もがそれぞれの人権問題について正しい知識を身につけるとともに、自らの問題としてとらえて行動につなげていくことができるよう、さまざまな人権問題に関する学習機会の提供や啓発活動を進めます。

また、性別にとらわれず、家庭・地域・社会などにおける、さまざまな活動に参画する機会が確保されるよう努めます。それとともに、女性の社会参画支援など、あらゆる分野における男女共同参画を進めます。

② 安心して子どもを産み育てられるまちづくり

核家族化の進行や雇用環境の変化、地域とのつながりの希薄化・孤立化などによる出産や育児の不安や負担感が大きくなっています。

そのため、安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠・出産・子育てへの切れ目のない支援や、家族や地域、職場などの協力を得ながら、妊産婦の母体管理や出産不安の軽減に努めます。

また、子どもの健やかな成長を促すための健康管理や、子育てに対する負担を軽減するための取組みなどの育児支援の充実を図り、安心して子育てできる環境づくりを進めます。

③ 支え合い健やかに暮らせるまちづくり

生活様式の多様化に伴い、生活習慣病の増加や若年齢化が進んでおり、急速な高齢社会の進行なども背景に、医療や介護を必要とする人が増加しています。また、社会経済環境などの変化に伴い、こころに不調を抱える人、ひとり親家庭や生活困窮者なども増えています。

そこで、生涯を通して心身ともに健康に過ごせるよう、それぞれの生活に応じた健康づくりを進める必要があります。また、誰もが住み慣れた地域の中で、お互いが支え合い、健やかに充実して暮らせるまちづくりの実現のため、自立支援のしくみづくりと、地域支え合い活動を進める必要があります。

そのため、保健・福祉・医療の連携を図り、市民の健康づくりを進めます。それとともに、生活困窮者、高齢者、障がい者などが抱える複合的な課題に対しては、「自助・互助・共助・公助」の視点に立って、包括的な支援を進めます。

併せて、地域福祉に対する市民の理解を深める取組みを進め、多様な支え合いを担う人材育成に努めます。

基本目標

郷土を担い学びあう人を育むまち

『人を育てる視点』

① 「生きる力」を身につけた未来を担うひとづくり

子どもたち一人一人の個性を活かし、変化する時代の潮流に自ら対応できる「生きる力」を育むため、学校・家庭・地域が連携し、未来を担う世代の健全育成に取り組む必要があります。

そのため、八代型小中一貫・連携教育の充実を通して、八代の未来を担う心豊かな人材の育成を目指し、幼稚園・保育所、小学校、中学校の縦のつながりと、学校・家庭・地域の横のつながりの中で、子どもたち一人一人の「生きる力」を育む学校教育を進めます。それとともに、子どもたちに安全・安心で、充実した教育環境を提供します。

また、子どもたちが健やかに成長できるよう、学校や家庭、地域、関係機関と連携し、地域環境の整備とともに青少年指導や相談事業を進めます。

② 誰もが学べる生涯学習のまちづくり

子どもから高齢者まで、生きがいを持ち、充実した生活を営めるよう、市民の学習や文化活動に対するニーズに応じて、誰もが学ぶことができるまちづくりが求められています。

そのため、地域で行われる生涯学習活動などを支援するとともに、誰もが生涯を通じて、多様な分野の学習に取り組める場や機会の提供に努めます。

また、生涯を通じて、すべての人権が尊重され、お互いを認め合える社会を実現する人権教育の推進に努めます。

③ スポーツに親しむまちづくり

市民の健全な心身の維持、健康増進のため、子どもから高齢者まで、市民自らが生涯にわたり取り組む豊かなスポーツライフの実現を支援する必要があります。

そのため、年齢や地域、障がいの有無に関係なく、広く市民がスポーツに参画できる機会を提供するとともに、市民自らが運営する組織への支援や指導者の育成を進めます。

また、各種競技スポーツの競技人口拡大や競技力向上に取り組むとともに、誰もが、安全・安心にスポーツ活動ができるよう、施設をはじめとする充実したスポーツ環境の整備に努めます。

④ 郷土の文化・伝統に親しむまちづくり

郷土を愛する人を育み、豊かで潤いのある生活を実現するために、特色ある伝統文化の保存・活用が求められています。それとともに音楽、演劇、絵画などのさまざまな芸術文化の発表の場や鑑賞機会の提供・充実が求められています。

そのため、市内各地域に数多く伝えられている歴史資料、史跡、建造物、伝統行事などの有形無形の貴重な文化財の保存・整備、継承、公開・活用を進めます。

また、優れた芸術を鑑賞する機会を数多く創出し、新たな市民文化の創造に寄与します。

基本目標

安全・安心・快適に暮らせるまち

『くらしを支える視点』

① 災害に強く安全・安心なまちづくり

近年、全国各地で地震や集中豪雨による自然災害が多発しており、本市においても平成28年熊本地震をふまえた防災・減災対策の一層の取組みを望む声が高まっています。また、日常生活を脅かす交通事故などのさまざまな社会問題に対しても、市民の生命や財産を守り、安心して暮らせるための対策が強く求められています。

そこで、災害に強く安全で安心なまちづくりを進めるためには、防災・消防体制の充実、防犯対策・交通安全の推進や、地域でお互いに支え合い自立したまちづくりを進めるなど、地域と一体となった取組みが重要です。

そのため、急激な気候変動による風水害や地震・高潮などの自然災害に強い基盤整備や地域の防災活動を担う自主防災組織の育成・強化及び消防・防災・危機管理体制の充実を図ります。

また、交通対策や防犯については、交通安全・防犯などの啓発・推進に努め、多様化する消費生活の問題に対しては、消費者教育や相談窓口の充実を図ります。

② 快適に暮らせるまちづくり

本市は、九州山地の脊梁地帯から平野部、さらには八代海までの広大な範囲にまたがり、個性豊かな地域を有しています。

そこで、市民一人一人が豊かでうるおいに満ちた暮らしを享受し、まちの活性化を図るためには、それぞれの個性を活かしたまちづくりを進めることが重要です。

そのため、豊かな自然と調和した個性的で魅力的なまちの形成を目指し、それぞれの地域の特色を活かした土地利用の推進を図ります。

また、計画的な道路、公園緑地、上下水道、情報通信基盤などの整備を進めるとともに、適切な維持管理を図り、誰もが快適に暮らせる居住環境づくりに努めます。

③ 暮らしを支えるまちづくり

道路などの交通基盤、交流・物流拠点などの整備は、市民の日常生活の利便性・安全性を図ることはもとより、市民生活圏の広域化や産業の活性化、物流拠点性の向上に対応するためにも欠かせません。

そこで、安全で快適に利用できるよう道路網のより一層の充実を図り、人と地域の交流が進むまちづくりが重要です。

そのため、広域道路網としての国道や県道、さらに都市計画道路をはじめ、地域道路網の整備を進め、安全で円滑な道路網の充実による利便性の向上を図ります。

また、都市の交流拠点性を高めるために、新庁舎を核とした中心市街地における都市機能の強化、九州新幹線新八代駅周辺の整備、南九州地域の国際物流・人流拠点としての八代港などの港湾施設の充実に努めます。

④ 公共交通の充実したまちづくり

公共交通は、市民の日常における通勤・通学・通院、買物など、移動手段として重要な役割を担っています。また、高齢化・人口減少社会を迎える中で、市民生活の利便性を維持するため、公共交通の重要性は高まっています。

そのため、鉄道、路線バス、乗合タクシー、フェリーをはじめとする地域公共交通については、近隣自治体とも連携して利便性の向上を図ります。

また、高齢化・人口減少社会への対応を図るため、本市のそれぞれの地域拠点を結び、コンパクトなまちづくりに寄与する持続可能な公共交通体系の構築に努めます。

基本目標

地域資源を活かし発展するまち

『活力を高める視点』

① 活力ある産業と雇用を創出し魅力に満ちたまちづくり

本市の農林水産業においては、担い手の確保・育成をはじめ、安全・安心な品質の高い農林水産物の生産や消費者への情報提供と、国内はもとより海外輸出も含めた販路の拡大などの流通対策が、振興を図る上で課題となっています。

そのため、担い手・生産・流通対策に関する農林水産施策の充実を図ります。それとともに、本市の農林水産物の高付加価値化と関連産業の集積により、「食」に関するあらゆる産業が活性化した「フードバレーやつしろ」を目指します。

また、商工業においては、中心市街地をはじめとする商店街の空き店舗対策や地域産業の振興と若者をはじめとする雇用の場の確保などが活性化を図る上で課題となっています。

そのため、地域産業の振興、企業誘致などについては、企業が発展するために必要な設備投資などに対する支援を実施します。併せて、人材の育成や雇用の確保を含めた多様な事業に取り組みます。

また、交通結節点である本市の立地的優位性を活かし、物流拠点機能や県南の「商工業集積地」としての役割を強化します。

② 交流人口の増加によるにぎわいのあるまちづくり

本市の恵まれた自然・文化・歴史などの魅力的で多様な個性ある地域資源やスポーツ大会などを活用し、観光客の増加を図ることが求められています。それとともに、クルーズ客船寄港に伴い増加する外国人観光客による経済効果などを中心市街地や商店街の活性化に結びつけ、にぎわいと交流を創出することが求められています。

そのため、ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭をはじめとする本市の伝統行事などを通じて、新たな価値や感動を提供し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図ります。

また、クルーズ客船寄港に伴い増加する外国人観光客をターゲットに、本市の自然・文化・歴史を活かした、観光地づくりを進め、交流人口の拡大を図ります。

基本目標

人と自然が調和するまち

『環境を創る視点』

① 環境を支えるひとづくり

良好な環境を保全・創出していくためには、高い環境意識を持ち、実際に行動する人を育てていくことが重要です。

そのため、関係団体などとの協働による各種環境イベントの開催や環境学習の機会の提供などを通して、市民や事業者の環境意識の高揚を図るとともに、自主的な環境保全行動を促進します。

② 自然と共生するまちづくり

九州山地に広がる原生的な森林、二次的自然である里地里山、球磨川や氷川に代表される河川、八代海に広がる干潟など、本市は多様で豊かな自然を有しています。この豊かな環境は、市民の心身にうおいを与え、健やかで快適な生活を享受する上で貴重な財産です。

そのため、良好な地域環境や生活環境の保全・整備を進めます。

また、未来に引き継ぐべき豊かな自然環境を守り育みながら、人と自然が共生していくまちづくりを進めます。

③ 環境への負荷が少ない持続可能なまちづくり

市民生活を取り巻く環境は、日常生活や産業活動に起因する廃棄物問題や、地球温暖化問題などの地球規模の環境問題が顕在化しています。

そのため、良好な地域環境を維持するため、ごみの減量化や資源のリサイクルの充実などを図り、循環型社会の構築を目指します。

また、地球温暖化問題への対応として、環境への負荷が少ないライフスタイルへの移行を目指すとともに、省エネ・省資源対策を進め、温室効果ガスの削減を図ります。